

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

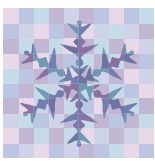
Nファミリー

2008.1.1

No.42



弱さの中に現れる力



十二月九日に、大和田広美さんというゴスペルシンガーを集会にお招きして「ファミリークリスマス」を行いました。大和田さんは、一才九か月のときに、はしかにかかりそれをもとで失明されました。四歳のときにピアノを始めました。盲学校のときに聖書の福音に触れ、クリスチャンとなりました。現在は講演・演奏活動に日本中で活躍されています。私が彼女の演奏を初めて聞いたのは二年前の白馬のセミナーでした。チャーチスクールの音楽も担当しており、その生徒たちの伴奏をしていました。演奏が終わって席に戻るとき介助の人に手を取られるのを見て、「目が不自由だったんだ！」と衝撃を感じたのを覚えています。

彼女の生の音をお聞かせできないのは残念ですが、彼女の著書「アイ・ラブ・ミー」の中に次のような文章があります。

「私は自分の障害を神さまからのギフトだと思っています。それによって地域の小学校とか福祉施設・病院など考えてもみないところでコンサートができるんです。それは障害があるから開かれているチャンスかなあ、と思っています。それはとても

喜ばしく感謝なことです。この働きの主導権は神さまにあるので、できるときにやらなきゃと思っています。障害があるということとで嘆くこともたくさんあります。

た。でも、それもまた神さまの計画の中にあることも知りました。...

彼女を見てみると、障害をバネして強く生きがなばり以上のものを感じます。自分を創造し愛しておられる方と共に歩む平安を感じさせられるのです。障害を背負ったのは前世の因縁ではありません。聖書に神は全能者と言われているので、どうして神がそれを阻止することができなかったのか、といぶかる人もいるかもしれませんが。確かに神は阻止することもできるでしょう。しかし、神の思いは人間のそれをはるかに超えているのです。その障害を通して、健全な状態ではわからない深い真理を明らかにされるのです。これを健常者である私が言っても説得力はないし、失礼かもしれませんが、生きた証人の一人が大和田さんなのです。以下は二千年前の記事です。

「また、イエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。『先生、彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。』イエスは答えられた。『この人が罪を犯したのもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。』」

(ヨハネの福音書九章一〜三節)

この後、イエスはこの盲人の目を開いて、自分が本当の救い主であること示されました。クリスチャンになっても、抱えた障害が治ることはほとんどありませんでした。しかし、「神のわざが現れる」ということを生涯通じて証しする人が二千年間途切れることなく現れたのです。こうして、地上の多くの人々の考え方をひっくり返してきたのです。

三世紀にこんなことがありました。教会の執事であったローレンスという人は、迫害を受け、ローマの役人から「教会の宝物」を持つてくるように命じられました。彼が持つていったものは物ではなく、貧しい者、虐げられた人、障害者たちでした。彼が自信ありげに「この人たちが教会の宝物です。」と言ったのです。彼はこの行為のゆえに網の上で焼き殺されました。

真に聖書の基準で歩もうとしたクリスチャンたちはこのように考え、世界は変えられていったのです。途中で進化論がおこりました。人間は偶然にできたのであって、障害があるのは進化の不具合が起こったに過ぎず、特別な意味があるわけではないとか、障害を受けている人は「人間の進化」にとって妨げ、と言われだしたのです。

創造主を見失うと人間は本当の価値を見失ってしまいます。それどころかとんでもない方向に向かっていってしまいます。今年こそ、自分を造られ、独自かつ最高の計画を立てておられる方のもとへ近づかれませんか？



公文チームで訪問した老人施設で剣玉をしました。基本の技でしたが、成功してみんな喜んでくれたので良かったです。

はじめてのボーリング

R

おじいちゃんに女の子三人がボーリングに連れて行ってもらいました。はじめはむずかしくてピンをたおせなかつたです。何回もガーターにもなってしまうました。でも後では六本くらいはたおせました。何回やってもストライクはわりでした。

ゲームが終わっておじいちゃんがみぞにふたをしてくれたのでやりやすくなりました。おじいちゃんとHちゃんはストライクを出していました。すごいと思いました。わたしもストライクを出したいと思いました。最高は九本たおせたけどどうしても一本は残ってしまい残ねんでした。

点数はだめだったけど人がボールを投げるのを見るのも楽しかったです。今度こそストライクを出したいです。

脳を触った時の感触

M

ゲートを通り抜けて、目に飛び込んできたのは全身標本！進んでいくとともに次々と目に飛び込んでくる臓器たち…。

先日、僕は梅田シティビルで開催されている「人体の不思議展」に行ってきました。中に入るとうじゃうじゃと人でごったがえしていました。しかし一度標本の方へよってみると目が釘付けになりました。

筋肉の筋や脳の輪切り、神経など、全てがそのままの標本たちを近くで見たことは、今まで、何度か骨格ぐらいしか見たことのなかった僕にとっては衝撃的でした。

標本の中でも、僕にとって特に印象的だったのは肺の血管の標本です。びっしりと細かい毛細血管がつまっているのを見たとき、神様の創造の技のすごさを具体的に見せられたように思いました。また脳と全身標本を実際に触ることができたのです！最初脳を触った時、予想以上に重く、キャベツぐらいの大きさで、一人で興奮していました。少しやわらかくて、強く押すとへこみそうで、とても不思議な感触でした。

ガイドブックにも書いていたのですが、人間の行動は、体のいろいろな部分の連携プレーによって始めて実現するといふことが、展示を見てわかった気がします。この連携プレーを実現するには、徐々に完成した状態へと変化していくといふ進化論の考え方はつじつまがあわなないなあと思いましたが、そして精巧な標本をみていると、命の大切さを考えさせられ、そして自分にこんな精巧な体を与えてくれた神様に感謝しました。

最初ただ興味と期待だけでいったのに、いろいろ深いことについて考えさせられた、という貴重な体験をすることができた一日でした。

こんなことしました！ 行事報告

十二月

一日 老人保健施設「くれない」へ

日曜学校より慰問

六日 J.Cホームチャーチスクール訪問

公文チームによる老健施設慰問

九日 ファミリークリスマス

大和田広美さんをお招きして

十五日 B.C・Y.Cクリスマス会

(劇・そのままのきみがすき)

十八日 絵画教室

「クリスマス会の案内を作るこつ」

二十二日 日曜学校クリスマス会

二十六日 大阪市立科学館

二十八日 おもちつき



大和田広美さんといっしょに。きれいな歌声をみんな気に入り、今もCDで聞いています。

編集後記

Hが菅平のバイブルキャンプに参加していたので六人で新年を迎えました。喜・怒・哀・楽乱れる、大「七並べ」大会も行いました。チヨコ棒の賞品獲得一番は、お母さんでした！